

手厚い育成ぶりに感激した桜ツアー

常務理事・事務局長 柚原 正敬
ゆはら まさたか

石門苗圃にすくすく育つ河津桜

ご案内のように、今年も三月六日から九日にかけて、本会が河津桜の苗木を寄贈している李登輝民主協会（蔡焜燦理事長）や台日文化経済協会（黄天麟



天麟・台日文化経済協会会長らと曾榮鑑・農業發展局局長（右4）の案内ですくすく育つ河津桜の苗木を見学（3月6日、桃園県大溪鎮）

会長）などを訪ね、「二〇一四台湾・桜ツアー」を実施いたしました。台湾の桜の盛りには間に合いませんでしたが、台北、台中、新竹の各地で名残りの桜を見てまいりました。

今回は特に、昨年十二月に初めて苗木百本を寄贈した台日文化経済協会が桃園県大溪鎮の石門ダム湖畔の仮植え所「石門苗圃」に植えた苗木の様子を見学することが目的の一つでした。

初日の三月六日、桃園空港に出迎えていただいた黄天麟会長や呂昌平秘書長らと一緒に石門ダムへ。

仮植え所では、吳志揚・桃園県長の代理ということで、大溪鎮長をつとめたこともある曾榮鑑・農業發展局局長に出迎えていただき、曾局長自らの案

仮植え所のハウスにはスプリンクラーを取り付け、定期的に水を遣っているとのこと、ポットに植えられた河津桜の苗木は葉も青々として本当に元気な様子でした。曾局長によれば、

ここは土壌の質があまりよくないというところで、台湾では桜の名所として有名な陽明山からわざわざ土を運んだそうです。桃園県側の真剣さが伝わってくるお話でした。

蔡焜燦理事長と台北日本人学校へ

二日目の三月七日は、蔡焜燦・李登輝民主協合理事長と待ち合わせしている台北日本人学校へ。李登輝民主協会はここに苗木二十本を寄贈しており、その生育状況を見るためにお邪魔しました。

台北日本人学校では亀山佳久・校長と山本巖・教頭自ら構内各所に植えられた河津桜をご案内いただきました。まだ花が残っている木もあり、この桜は三メートルほどに育っています。



陽明山散策の後の李登輝民主協会との昼食会で桜育成の資として蔡理事長に桜募金から寄付金を手交（3月7日、台北・兄弟大飯店）

手入れが行き届いていて、大切に育てられている様子を拝見できました。続いて、蔡焜燦先生にも同行していただいて桜の名所である陽明山へ向かい、途中で文化大学に通う王子軒君が同乗、陽明山を案内していただきました。ただ、この桜も入口付近こそ咲いていましたが、中に入るとすでにとんどが散った後でした。

そこで早々に引き上げ、蔡焜燦先生主宰の昼食会へ。会場の兄弟大飯店には、李登輝民主協会の李雪峰・張燦鑒



毎年参加の小島善明氏（右2）は持参した河津桜まつりのポスターを亀山校長（右1）に寄贈（左1は蔡理事長、左2は山本教頭。3月7日、台北日本人学校）

内で河津桜の苗木がすくすくと育っている様子を拝見し、参加者一同、手厚い育成ぶりに感激しました。

桃園県は今年十二月に桃園市と合併し、六番目の行政院直轄市になることが決まっています。人口も二百四万人となり、台北市に次ぐ台湾第五の大都市になります。そこで、観光の目玉が欲しいということで、桜公園や桜並木などを作る計画があり、そのためには日本からの桜をぜひ植樹したいと力を入れているそうです。

面常務理事、蔡先生の実弟の蔡焜霖先生なども出席、にぎやかな昼食会となりました。この席上、本会で皆様からいただいた募金から李登輝民主協会に五十万円を寄贈しました。

これは、本来なら本会から苗木を贈る予定だったのですが、昨年同様、李登輝民主協会から接木によって苗木を増やしたいという申し出をいただき、その資とするためです。

昼食会後、一行は一路台中市へ。台中市内での夕食会には、元台北駐日経



許世楷・元台北駐日経済文化代表処代表や盧千恵夫人、東海大学の王良原助教授らと夕食会（3月7日、台中・阿秋大肥鵝）

済文化代表処の許世楷大使と盧千恵夫人、東海大学の王良原・助教、本会会員で東海大学に留学中の藤倉聡子さんなどにもご出席いただきました。

この席で、許大使からは台湾と中国を巡る動きや馬英九政権の対中政策など、最近の台湾情勢についてお話しいただきました。中国に傾斜していく馬政権は、果たして台湾の前途をどのように考えているのか、台湾の人々でなくとも不安になってしまいうご講話でしたが、台湾と日本の絆を強めることが大事とのご指摘に、この桜が役買ってくれることを願うばかりです。

今年も桜花張さんの農場を訪問

三日目の三月八日は台中市在住の本会会員の黄木壽氏もホテルから同行、まず河津桜を植樹し、公園入口に本会から寄贈した旨が記されている記念碑も建てられている台中公園へ。

しかし残念ながら、ここに植えられた二百本余の河津桜は大半が枯れてし



3ヘクタールもある広い農場に河津桜や富士桜、吉野桜などを所狭しと植え、桜のアーチも作成中の張州府氏(左4、3月8日、台中・員農種苗繁殖場)

まい、残っているのは数本。それも小さな枝ぶりです。桜の育成は、土壌検査にはじまり、毎日のように水をやるなど手間がかかるのですが、台中市政府は公園管理所に委託してしまい、どうもうまくいかなかったようです。

その後は、台湾の桜守「桜花張」さんこと張州府氏の員農種苗繁殖場へ。ここは昨年も訪問しましたが、桜を接木で増殖している一大花卉農場。桜の苗木を買いに来る人も少なくなく、入口には車屋台のお店が三、四軒出ている。



台湾大地震で現在の高台に移転した台中日本人学校には李登輝元総統ご揮毫の扁額や日本から寄贈の河津桜が大きく育っていた(3月8日)

ます。三ヘクタールあるという広い農場内には、河津桜をはじめ富士桜、吉野桜など所狭しと植えられていて、桜の木で桜のアーチを作ろうという試みもなされており、意欲的な取り組みに一同大感激でした。

員農種苗繁殖場の後は台中日本人学校へ。ここでも廣瀬孝二・校長と田村洋幸・教頭に出迎えていただき、李登輝元総統が「台中市日僑学校」と揮毫された扁額や校内をご案内いただきました。

洪日盛さんらとともに、まず新竹神社の様子を見学しました。

新竹神社の跡地は現在、移民署が管理する難民や密航者など不法滞在者を収容する施設になっているため、簡単には入れません。そこで新竹市政府の方に案内いただきました。社務所と参道などが残っていて、社務所は管理施設として使用されていました。雨がそぼ降る生憎のお天気でしたが、北白川宮大妃殿下お手植えと伝えられる大きな黒松や、昔日の雄姿が偲ばれる建

物や相撲場跡も見学でき、静かな感動を味わいました。

新竹の河津桜

最終日の三月九日は、日曜日にもかかわらず張会長、洪日盛さん、新竹市政府の方々のご案内により、新竹公園に植えられた河津桜を見学しました。

やはり、今でも管理が行き届いているからでしょうか、この桜はよく育っています。日本からお贈りした河津桜は大島桜を台木(母木)としているせいか、台湾の原種である山桜(寒緋桜。台湾桜とも)を台木にした河津桜の方が断然生育がいいのには驚きました。日本からお贈りした河津桜は十一年目ですが、山桜に接木した八年目の河津桜の方が幹回りも太く、大きくなっています。

このようなことで、今年は例年になく気温が低く、寒い中の「台湾・お花見ツアー」でしたが、たいへん充実した三泊四日でした。



不法滞在者の収容施設になっている新竹神社の跡地には北白川宮大妃殿下お手植えと伝えられる大きな黒松が枝を広げていた(3月8日、新竹市)



張震天会長や洪日盛氏らに新竹公園をご案内いただき、台湾原種の山桜を台木にした河津桜の生育の良さに驚かされた(3月9日、新竹市)